

市を語る1

釜石市（岩手県）

釜石市長 小野 共



明治日本の産業革命遺産「橋野鉄鉱山」



釜石はまゆりサクラマスの水揚げ

釜石市は、岩手県の南東部、県都盛岡市から車で約1時間半、三陸復興国立公園のほぼ中心部に位置しており、世界三大漁場の一つである三陸漁場を控え、古来より漁業が盛んでありました。

釜石市は、岩手県の南東部、県都盛岡市から車で約1時間半、三陸復興国立公園のほぼ中心部に位置しており、世界三大漁場の一つである三陸漁場を控え、古来より漁業が盛んでありました。

釜石を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録され、本年は世界遺産登録10周年を迎えて各種記念イベントを開催しています。

また、かつて本市の新日鐵釜石ラグビー部が日本選手権において、昭和54年から昭和60年にかけて7連覇の偉業を成し遂げ、その圧倒的な強さから「北の鉄人」と呼ばれ、全国にその名を轟かせました。

国にその名を轟かせました。

令和元年に開催されたラグビーワールドカップ2019™

日本大会では、開催都市の一

つとしてフィジー対ウルグアイ戦が行われました。

それらの背景から本市は、近代製鉄発祥の地として日本経済を牽引した誇り高い歴史を有しており、「鉄と魚とラグ

本市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けました。犠牲になつた方々1064人（関連死認定者数106人含む）、家屋被害4704戸と多くの尊い生命と財産を失いました。



ラグビーワールドカップ2019釜石開催

東日本大震災からの復興

復興完遂後の新たなまちづくりを見据え、令和3年3月に第六次釜石市総合計画を策定しました。まちの目指すべき将来像を「一人ひとりが学びあい世界とつながり未来を創るまちかまいし」とし、市内8地区の生活応援センターや地域会議を中心に、全ての市民が

わが

持続可能で三陸地域の拠点となるまちづくりを目指して

釜石市について

私たちにはこれまで経験したことのない深い悲しみから立ち上がるため、平成23年12月に釜石市復興まちづくり基本計画を策定し、自立再建の宅地と復興公営住宅2761戸や防災施設の整備などハード整備と併せ、被災者の心のケア、見守りなどのソフト事業を実施してきました。全てのハード整備は、全国各地、世界各国の皆さまのご支援により、令和5年3月末をもつて完遂しています。

本市は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けました。犠牲になつた方々1064人（関連死認定者数106人含む）、家屋被害4704戸と多くの尊い生命と財産を失いました。

全市民参加でつくるまち

復興完遂後の新たなまちづくりを見据え、令和3年3月に第六次釜石市総合計画を策定しました。まちの目指すべき将来像を「一人ひとりが学びあい世界とつながり未来を創るまちかまいし」とし、市内8地区の生活応援センターや地域会議を中心に、全ての市民が

方々1064人（関連死認定者数106人含む）、家屋被害4704戸と多くの尊い生命と財産を失いました。

まちづくりに参画して「みんなが愛着と誇りを持ち、幸せを感じるまち」にするべく、幸せや希望が連鎖するまちづくりを推進してまいりました。

人口減少に対応した持続可能なまちづくり

本市においても人口減少は大きな課題であり、平成28年に「釜石市オープンシティ戦略」を策定して人口減少の緩和を図るとともに、持続可能で活力あるまちづくりの実現を目指して取り組んでもいました。令和7年4月には第3期釜石市オープンシティ戦略を策定し、本市の地方創生の理念を実現するための指針としており、その代表的な取り組みを紹介します。

(1) 地域活性化起業人

総務省の地域活性化起業人制度を活用し、地域課題の解決や地域独自の魅力・価値の向上に取り組んできました。令和6年度まで江崎グリコ(株)、ソフトバンク(株)、ソウルドアウト(株)からそれぞれ社員1名を本市に招き入れ、地場企業との協働による商品開発や庁内のDXの推進、本市の観光施策の推進などを図つていただいてお

り、今後も同制度を活用して取り組んでまいります。

(2) ワーケーション施設整備

官民共創プラットフォームとしての市内外の多様な連携と交流を創出する拠点として、テレワーカー環境が整った収容人員50名以上のワーケーション施設「Nemaru Port」(ねまるポート)が令和7年7月30日にオープンしました。本市と本市を訪れるさまざまな「人が、集い、学び、そして共創する場

として、ワーケーション実施企業、共創パートナー、国内外ツーリスト、他の地方公共団体など、さまざまな「人材の垣堀」になることを目指しています。



ワーケーション施設「Nemaru Port」

結びに

令和8年3月で、震災からちょうど15年が経過します。私たちはこれまでも、明治三陸津波と昭和三陸津波により壊滅的な被害を受け、また太平洋戦争の際には、連合艦隊から受けた2度の艦砲射撃になりましたが、そのたびに立ち上がり、それらを乗り越え、まちを再興し

プロフィール



釜石市長
小野 共

面積	440.35 km ²
人口	2万8335人
世帯数	1万5215世帯

【将来都市像】一人ひとりが学びあい世界とつながり未来を創るまちかまいし多样性を認めあいながらトライし続ける不屈のまち

【特産品】浜千鳥(地酒)、仙人秘水(自然水)、釜石ラーメン、甲子柿、釜石はまゆりサクラマスをはじめとする海産物

【観光】橋野鉄鉱山、鉄の歴史館、御箱崎千疊敷、五葉山、根浜海岸、うのすまい・トモス

【イベント】釜石まつり、釜石まんぶくフェス、釜石納涼花火、かまいし仙人峠マラソン大会、全国虎舞フェスティバル



*面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

てきたという歴史を有しています。このように私たちには、どんな困難にも決してくじけることのない「不撓不屈」の精神が脈々と受け継がれています。私たちは、決して撓ることなく、屈することなく、震災からの復興に取り組んできましたが、今後は、将来に亘って持続可能で三陸地域の拠点となるまちづくりを目指して、市民の皆さんとともに、歩みを進めてまいりたいと考えております。





国司に扮（ふん）した国府サミットの参加者の皆さま

から過去最多となる
性化を目指すもの
に情報交換を行う
ことで、まちの活
長が連携し、相互
に国府が置かれて
いた72自治体の首
は、奈良・平安時代
に会館において、「第6回全国国府
サミットin市川」
を開催しました。

去る本年10月18日、市川市文化
会館において、「第6回全国国府
サミットin市川」
を開催しました。

全国国府サミットin市川 の開催

「ICHICO」の使い方を市民に説明する職員
組みである「Aruco（アルコ）」との連携も構築するなど、さまざまな機会を通じて、着実に市民・事業者の皆さんへの浸透を進めてまいります。

また、健康増進の取り組みである「Aruco（アルコ）」との連携も構築するなど、さまざまな機会を通じて、着実に市民・事業者の皆さんへの浸透を進めてまいります。

本市には下総国府の国庁があり、国分寺や国分尼寺もかつて存在していました。今後も受け継いだ「国府」の魅力を活用し、後世に引き継ぐ使命を果たしてまいります。

今後の展望

本市は、昭和9年11月3日に千葉県で3番目に誕生した市であ

り、令和6年に市制施行90周年という節目を迎えました。誕生当時、約4万人であった本市の総人口は、現在も増加を続け、50万人に迫っていますが、今後、日本全体の

人口が減少していく中で、本市が持続可能な発展をしていくために重要な魅力あるまちづくりが重要であると考えています。

本市では、本年5月に環境省より脱炭素先行地域に選定されたこ



「ICHICO」キャンペーンのポスター

市内全域で展開しています。年間で約16・8億円相当のポイントが利用され、算出した経済効果は約9・7億円となりました。

また、健康増進の取り組みである「Araco（アルコ）」との連携も構築するなど、さまざまな機会を通じて、着実に市民・事業者の皆さんへの浸透を進めてまいります。

本市には下総国府の国庁があり、国分寺や国分尼寺もかつて存在していました。今後も受け継いだ「国府」の魅力を活用し、後世に引き継ぐ使命を果たしてまいりました。

本市には下総国府の国庁があり、国分寺や国分尼寺もかつて存在していました。今後も受け継いだ「国府」の魅力を活用し、後世に引き継ぐ使命を果たしてまいりました。

今後も「市民日線」「現場主義」を基本とし、市制施行100周年、そしてその先の未来を見据えたまちづくりを進めてまいります。

今後も「市民日線」「現場主義」を基本とし、市制施行100周年、そしてその先の未来を見据えたまちづくりを進めてまいります。

プロフィール

面積
56・39km²
人口
49万7750人
世帯数
26万3956世帯

「将来都市像」とともに築く自然とやさしさがあふれる文化のまち いちかわ

「まちの特徴」利便性が高い住宅都市でありながら、史跡や寺社、行徳の神輿文化（市指定無形民俗文化財）などの歴史・文化的資産と豊かな自然環境が残るまち



市川市長
田中 甲



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町別面積調」による。
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



「脱炭素先行地域」選定証授与式

とを受け、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを加速させ、「市民参加型の環境先進都市の実現」、また教育の充実による「学びの質の向上」、誰一人取り残さない「市民生活の安全保障」などに取り組んでいます。

今後も「市民日線」「現場主義」を基本とし、市制施行100周年、そしてその先の未来を見据えたまちづくりを進めてまいります。

市を語る3

守山市（滋賀県）
もりやま

守山市長
森中高史
もりなかたかふみ

企業誘致と「起業家の集まるまち」で進める官民連携のまちづくり



琵琶湖大橋 (滋賀県の東西をつなぐ橋)

守山市は、琵琶湖の南東に位置し、JRで京都駅まで30分弱、大阪駅まで60分弱という立地の良さに加え、災害が少なく、医療・教育・子育て環境が整い、琵琶湖などの豊かな自然に恵まれていることから、現在でも人口増加が続くまちとして発展を続けています。

市内では、約800年続く勝部と浮気町の「火まつり」やユネスコ無形文化遺産に登録された「近江のケンケト祭り」、「刀振り」など多くの祭礼が継承されています。中山道守山宿の宿場町として栄え、第75代内閣総理大臣の宇野宗佑先

守山市は、琵琶湖の南東に位置

生の生まれ故郷でもあります。

特産品のモリヤマメロンのほか、ナシやブドウ、イチゴやイチジクなどの栽培が盛んなほか、琵琶湖一周サイクリング、略して「ビワイチ」の発着点として、自転車活用のまちづくりを進めています。

積極的な企業誘致の推進

本市では、恵まれた立地や災害の少なさを活かし、積極的な企業誘致を推進しており、大型プロジェクトが同時並行で進んでいます。



守山駅東口再整備基本計画

守山駅東口周辺では、高さ100m、1600人以上の従業員が働く株式会社村田製作所の研究開発拠点「守山イノベーションセンター」

横江地区では、市街化区域への編入により10haの工業団地を造成し、ホンダとの協業でEV用リチウムイオンバッテリーの新工場の建設

の建設が進んでおり(令和8年12月竣工予定)、この機会を捉えて守山駅東口の再整備に着手

し、先般「守山駅東口再整備基本計画」を策定しました。再整備で

は、①複合商業機能(ホテル、カ

フェなど)、②ワークプレイス機能(企業誘致)、③広場(憩い・交流)

機能、④交通結節機能(ロータリーなど)、⑤東西アクセス機能の五つ

の導入機能が有機的に連携し、全

体的に一体感あるエリアの形成を目指して検討を進めています。

企業の多彩なニーズに応える用地を用意



株式会社村田製作所の研究開発拠点



大規模産業団地の開発

本市では、企業の多彩なニーズに応じた用地を用意し、企業誘致を図っています。具体的には、①駅前での研究開発・本社など事務所用地、②郊外での大規模工場用地、③郊外での研究開発用地です。

①は、既述の守山駅東口再整備の中で、駅直結で至便の「企業誘致

致エリア」を、②は、既述の笠原産業用地の市土地開発公社開発エリアのうち、残すところ約4・5haのみですが、工場用地を確保しています。

③は、地区計画制度を活用し、

市街化調整区域であっても、一定の条件の下で、進出希望企業からの要望に応じた民間開発を可能としています。

このように、さまざまな企業

ニーズにスピード感をもつて対応することできることで都市間競争に勝ち残る戦略を描いています。

起業家の集まるまち守山

本市では、10万人未満の都市では珍しく、起業家支援に力を入れています。この理由は、市民のニーズや価値観が多様化し、今まで通りの行政サービスでは応えきれなくなつており、スタートアップなどの新しい技術やサービスを積極的に取り入れていく必要があること



女性起業家イベント



小中学校のキャリア教育

と、若い世代に「失敗」を恐れず挑戦して欲しいので、アントレプレナーシップを育むためです。

このため、機運醸成イベントや支援機関などが一堂に会した協議

会の設置、中高生ピッチや市内小中学校に地域の起業家が講演するキャリア教育、リビングラボの立ち上げなど、さまざまな取り組みを進めてきました。

実証実験のフィールド守山

令和6年度からは「守山を実証実験のフィールドに」をスローガンに掲げて、官民連携プロジェクトをスタートさせています。

新しい技術やサービスを社会実装する際には、何らかの実証実験が必要になります。本市は京阪神からも近く、都市部と豊かな自然とが共存しているため、実証実験のフィールドに適していると考えています。

また、スタートアップなどが行政と連携する際には「行政の壁」(公平性の壁)や「実績の壁」(実績がないダメ)など)がネックになりますが、この官民連携プロジェクトでは、この「行政の壁」を取り払い、

市長へのプレゼンテーションのみで、実績がなくとも採択可能です。

そして採択されたプロジェクトについては、市役所が責任をもつて徹底的に伴走支援し、地域の課題解決に向けた実証実験を行います。本年度は電子投票、衛星データ

プロジェクトについても、市役所が責任をもつて徹底的に伴走支援し、地域の課題

走支援し、地域の課題解決に向けた実証実験を行います。本年度は電子投票、衛星データ



タと音響AIによる水道検査、高齢者見守り、SNSでの観光発信の4者を採択し、実証を行っています。

今後も、民間企業との連携を推し進め、行政も「失敗」を恐れず、実証を行っていきます。

プロフィール



守山市長
森中高史

【将来都市像】豊かな田園都市を目指して、「10年後、20年後を見据えたサステナブルなまちづくり」
【まちの特徴】都市部の利便性と豊かな自然とが共存しているため、実証実験のフィールドに適していると考えています。

【イベント】守山夏まつり、守山ぼうとう祭り、フエスティバル、もりやまトキッズフェスティバル、もりやまいち、火祭り、長刀まつり、すし切り祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



市 わが

を語る 4

三原市（広島県）

三原市長 岡田吉弘

未来へ向け、「まちの元気・活性化」と「全ての市民にやさしいまち」を目指して

私は市長に就任以来、激しく変

化する社会や経渓に対応するため、さまざまな機関と連携・協調し、市民の視点を的確に受け止め、チャレンジの姿勢をもって三原市の発展に全力を注いでおり、現在、「まちの元気・活性化」と「全ての市民にやさしいまち」を柱に施策を推進しています。

まちの元気・活性化に 向けて

国は新たな成長戦略において、地方経済を支える新時代のインフラ整備としてデータセンターの地方への分散化を図り、GXとDXの両立や地方創生の推進を目指している中、本市では、本郷産業団地にデータセンターの立地が決定しました。この機会を最大限に生かして関係企業の誘致に積極的に

取り組むとともに、新たな産業団地の整備に向け、企業の立地意向の調査や基礎データの収集を行っています。

また、瀬戸内海の玄関口である港と離島では、まちの景色をワクワクするものにす

る取り組みが進行中です。三原内港では、広島県と連携し、旅客ターミナルの建て替えなどを進めています。内港は三原駅から徒歩5分の場所に立地しており、この事業を通じて、市中心部の活性化とともに、国内外から

注目される瀬戸内エリアという立地を生かし、瀬戸内海と島の魅力を最大限に發揮し、その可能性を拓くものと期待しています。また、ヴィクトワール広島との連携協定に基づく官民連携によるロードレース大会の開催や、誰もが気軽にスポーツに親しむ環境づくりのため、運動公園の人工芝やナイター設備の整備などにも取り組んでいます。



瀬戸内海の眺望

界的に著名な建築家によるデザイン

の建築物を誘致できたことで、この島が世界に誇れる魅力的な場所になると確信しています。

こうした取り組みは、国内外から



広島みはらプリン

にぎわいの創出を
官民連携で

本市には、季節を彩る果実や野菜、自然が育んだ牛や鶏、瀬戸内海のタコや魚など、豊かな食材があります。この食材を活用して、官民連携で盛り上げているのが「広島みはらプリン」です。みはらプリンに登録されたプリンは現在100種類を超えて、ご当地プリンフェスティバルの開催や企業と小学生のコラボ商品も生まれるなどの盛り上がりを見せていました。



みはらこども・子育て応援宣言



こどもおしごとチャレンジ

令和5年には、農林水産省の「ディスカバー農山漁村の宝」にも選定されました。にぎわいの創出には、官民の連携が欠かせません。多くの人に本市の食の素晴らしさと感動を提供するみはらプリンは、地域への誇りと愛着、さらに、まちににぎわいをもたらしています。

また、最新のAI技術の動向分析や職員のAIリテラシーの向上を図るため、本年5月に県内初となるAIコーディネーターを任命しました。市内事業者とも連携し、市の課題解決にAI技術を活用するよう取り組んでいます。

全ての市民にやさしいまちづくり

子どもは本市の宝です。少子化や

核家族化など、社会環境が大きく変化し、人口が減少する中で、次代を担う子どもたちが健やかに成長をできる環境づくりが必要です。

本年3月には、子ども・子育て支援策の積極的な推進と、市民の皆さまと連携して、子どもや子育て家庭を支えていくため、「みはらこども・子育て応援宣言」を行いました。児童館「ラフラフ」は、小学生から中高生、保護者など250人を超える方がボランティアとして運営に関わり、利用者は現在の場所に移転する前の平成31年度に比べ3倍以上に増加しています。

また、子どもたちに、未来への希望を五感で感じてもらいたいと思いつ、市長就任以来、特に力を入れて取り組んできたのが、「こどもおしごとチャレンジ」です。おしごとチャレンジでは、年間を通してさまざまな職種の仕事を体験を提供しており、昨年度は延べ2000人を超える参加がありました。参加した子どもたちからは「将来就きたい仕事が見つかった」などの感想も寄せられ、将来について考える貴重な機会になっています。こうした取り組みが

プロフィール



三原市長
岡田吉弘

【将来都市像】「ともに支え合い、ともに認め合えるまち」「三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち」「社会に調和し、安全・安心・快適に暮らせるまち」「多彩な産業が活力を生むまち」「三原らしさ」を存分に活かし、人々が交流するまち

◆面積 471.51km²
◆人口 8万5931人
◆世帯数 4万3475世帯



【市町村合併】平成17年3月22日、三原市、本郷町、久井町、大和町の1市3町が合併
【特産品】広島みはらプリン、三原だるま、やつさタコ、三原神明鶏、米粉用米、わけぎ、くりーむパン、日本大根
【観光】筆影山・竜王山（瀬戸内海の多島美）、塔の峰千本桜、県立中央森林公園、三景園、佛通寺（紅葉）
【イベント】三原やつさ祭り、三原さつき祭り、三原浮城まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

評価され、本年7月には一般社団法人日本子育て支援協会の「日本子育て支援大賞」を受賞しました。

元気でやさしいまちを目指して

本市は、本年3月に市制施行20周年を迎え、新たな総合計画がスタートしました。目標すべきまち

の姿の実現に向けて、市民の皆さんと力を合わせ、元気でやさしいまち三原市を創っていきます。

本市は、本年3月に市制施行20周年を迎え、新たな総合計画がスタートしました。目標すべきまち

の姿の実現に向けて、市民の皆さんと力を合わせ、元気でやさしいまち三原市を創っていきます。